

経済効果

腸が変わると、収益も変わる。

国内主力養豚農場

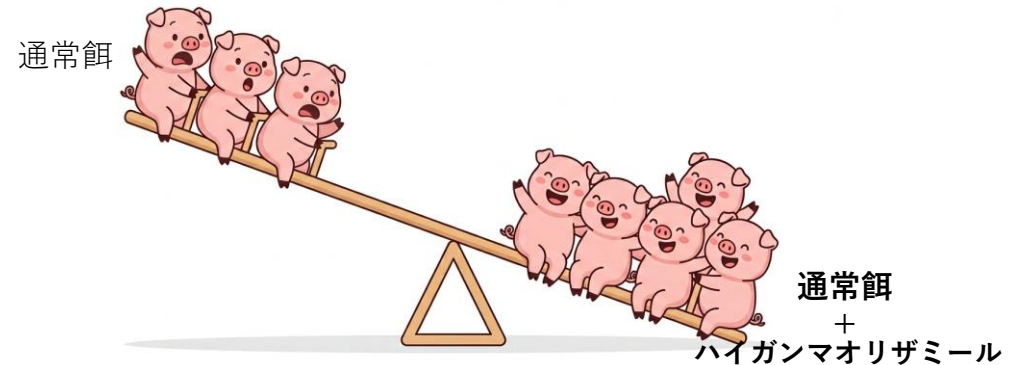
年間出荷：1万～3万頭

常時飼養：約5,000～15,000頭

給餌対象は「離乳子豚」のみ → 頭数全体の20～25%
(出典：養豚経営指標・業界資料より
(年2回転))

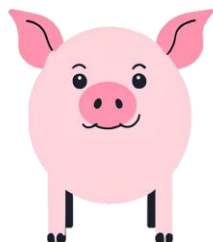
ハイガンマオリザミールのエビデンス

- ・ 飼料要求率： **0.1kg 減少** 日本科学飼料協会にてブロイラー試験実施
- ・ 増体率： **14.5% 向上** 日本科学飼料協会にてブロイラー試験実施
- ・ 育成率： 90%（国内平均） → **95.8% へ改善**
広島県三原市の豚舎にて試験実施
- ・ 消 臭： 臭気指数 36 → **22 へ低下**
福岡県糸島市の豚舎にて試験実施

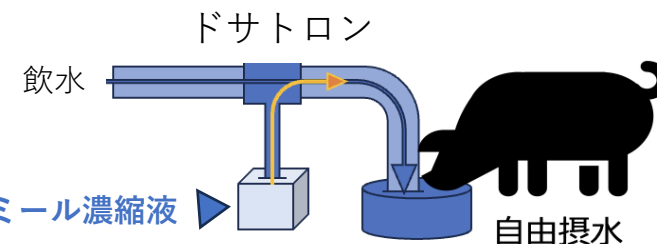


健康状態の底上げは
ワクチン・抗生剤の
コスト削減にも繋る

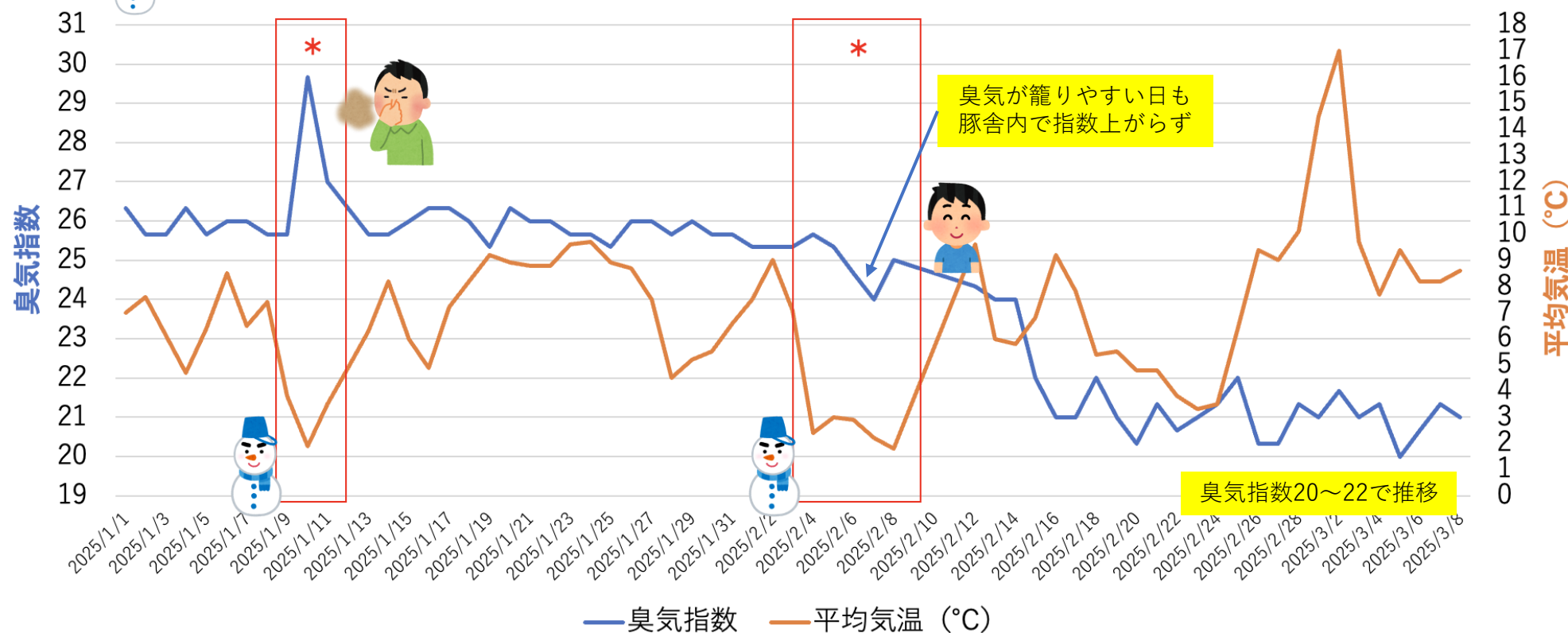
豚舎内の臭気指数が市街地（最大値）レベルまで低減



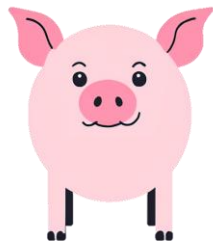
試験蓄種：生後30～50日豚 1,200頭
試験飼料：ハイガンマオリザミール（ γ -orz含有率0.04%）
給餌方法：右図の通り
試験期間：約2ヶ月間（67日間）
試験場所：糸島市内 豚舎



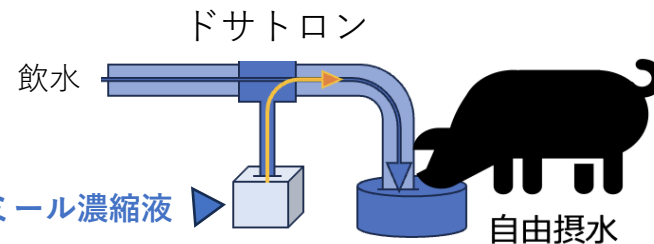
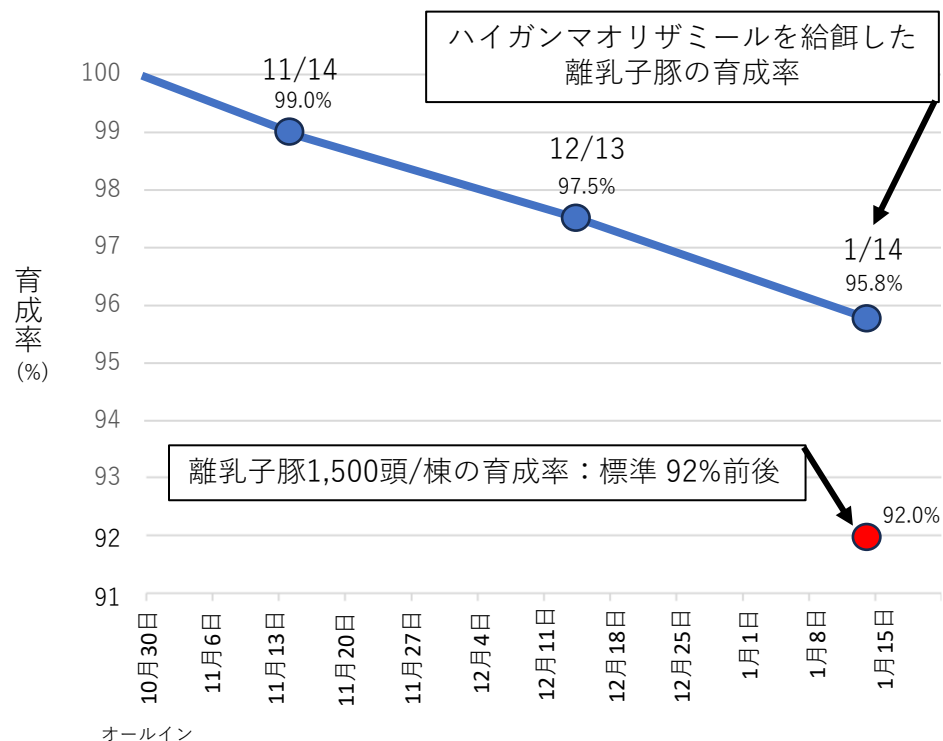
寒冷日：豚舎の室温維持のため、窓を閉め換気扇を止めるため匂いが籠りやすい



離乳子豚飼育中の育成率改善



試験蓄種：生後30～50日豚 1,625頭
試験飼料：ハイガンマオリザミール（ γ -orz含有率0.04%）
給餌方法：右図の通り
試験期間：約2ヶ月間（67日間）
試験場所：広島市内 豚舎

1豚舎で1500頭（1ロット）の離乳子豚を飼育した場合
育成率による頭数及び売上の差

2024年（令和6年）養豚農業実態調査報告書 令和7年3月 一般社団法人 日本養豚協会（JPPA）より

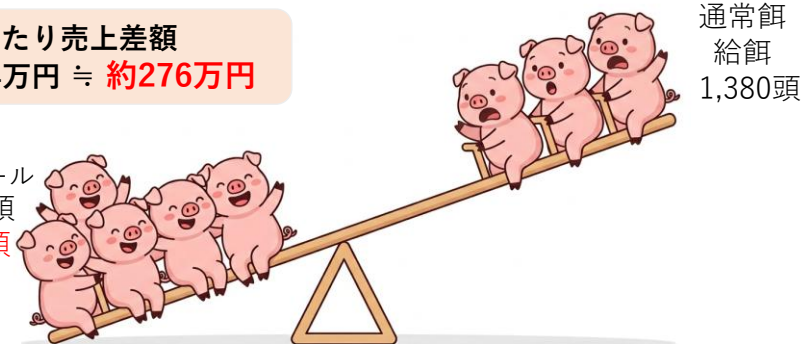
国内の平均枝肉重量 74.4kg/頭
（2024年全国平均）

豚肉卸売価格（月次）平均約650.5円/kg
（2025年4月～2026年3月の月次価格平均）

1頭あたり売上 = 74.4kg/頭 × 650.5円/kg ÷ 48,400円/頭

ロットあたり売上差額
57頭 × 約4.84万円 ÷ 約276万円

ハイガンマオリザミール
1,437頭
+ 57頭



離乳子豚1,500頭規模の豚舎で育成率が92.0%から95.8%に改善すると、
年間で約550万円の増収効果が見込まれます。
（豚の飼育期間を約半年として年2ロット）